

## 公表

## 放課後等ディサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等ディサービス たねまき			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日 ~ 2026年 1月 25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	2026年 1月 16日 ~ 2026年 1月 22日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童ごとの特性と保護者様のニーズを把握したうえでの療育プログラムの実施	LINEと連携した連絡帳システムで、日々の様子を写真付きでお伝えしています。送迎時にはその日の様子を口頭で補足しながら、保護者様とのコミュニケーションの機会も設けています。会話の中でおうちや学校での様子をお伺いし、職員間で速やかに共有できるようにしています。また、日々のやり取りにはLINEを活用し、手軽で迅速なやり取りを実現しています。	日々の様子の共有に加え、中長期的な視点を取り入れた支援の実現に向けて今後もコミュニケーションの機会を増やしてまいります。 療育プログラムについては、社内での勉強会を通じてさらなる質の向上に努めてまいります。
2	個別療育、集団療育、農業療育の三本柱による多角的な療育アプローチ	児童それぞれの特性を踏まえた個別支援計画書を作成し、各種療育プログラムに反映しています。特に総合的な発達支援の一環として農業療育に取り組み、土づくりから収穫までを子どもたちと一緒に行っています。収穫した野菜はおやつとして提供したり、ご家庭に持ち帰っていただいています。	農業療育を体系化し、季節に応じたカリキュラムとして確立してまいります。収穫量を増やすことで、マルシェなど地域社会とのつながりのきっかけとなる機会の提供も検討してまいります。
3	手作りおやつによる食育アプローチ	毎回のおやつは手作りで提供しており、アレルギーにも対応しているため安心して召し上がっていただけます。誰が作ったかを必ず伝えるようにしており、それがわかることで、好き嫌いや偏食を克服するきっかけにもつながっています。	児童が畑で収穫した野菜をおやつに活用する機会を増やし、食をより身近に感じられるような取り組みを検討してまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	緊急時の対応や、感染症対策など事業所で取り組んでいく運営体制に関する情報の公開	新規ご利用開始時の説明が不足しておりました。	資料の公開方法を検討し、保護者様がいつでも情報にアクセスできる環境を整えてまいります。避難訓練などの実施については月間予定に組み込み、保護者様が確認しやすいよう工夫してまいります。
2	子育てや、学校生活など当事業所以外での様子に対する具体的なアドバイス	日々の療育プログラムや直近の課題に焦点を当てた、近視眼的なアプローチに偏りがちでした。	保護者様との面談や学校訪問など、事業所以外での過ごし方を直接見聞きする機会を増やし、中長期的な課題に対するコミュニケーションを深めてまいります。そのうえで、より現実的かつ踏み込んだサポートを検討してまいります。

3	専門性の高い療育アプローチ	職員のインプット機会が不足していたことが最も大きな要因だと考えています。	社内におけるノウハウやナレッジの共有会を実施するとともに、社外研修の受講を組織的に実施いたします。知識の習得と実践のサイクルを回すことで、専門性の底上げを図ります。
---	---------------	--------------------------------------	--